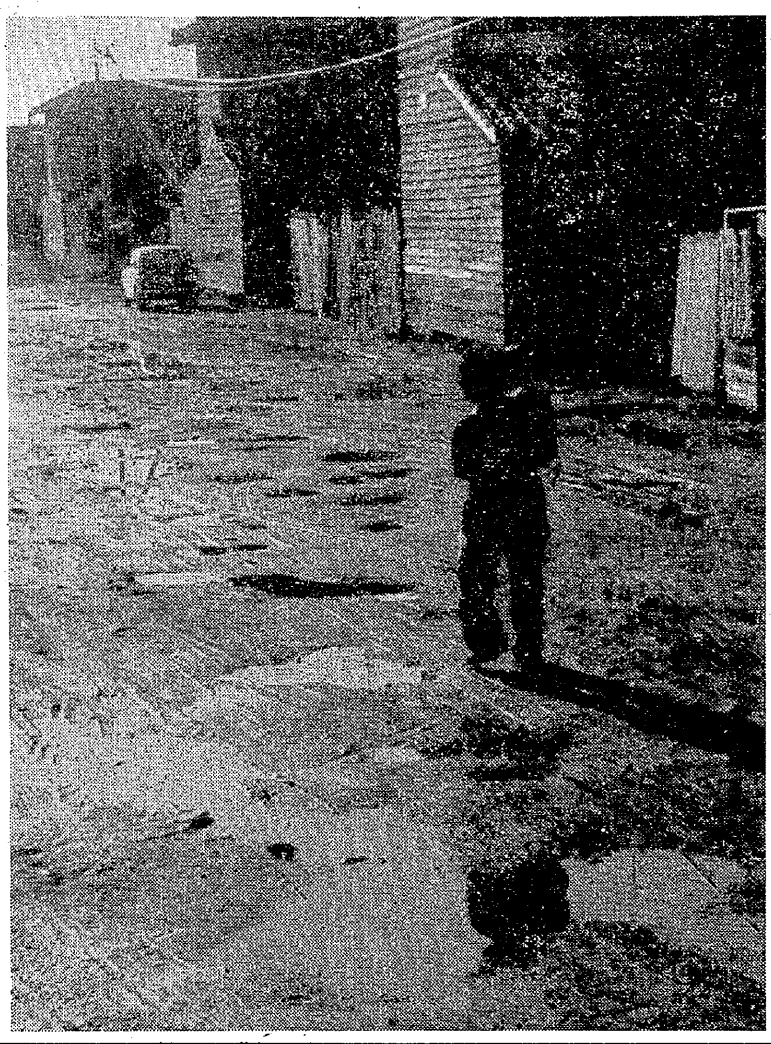
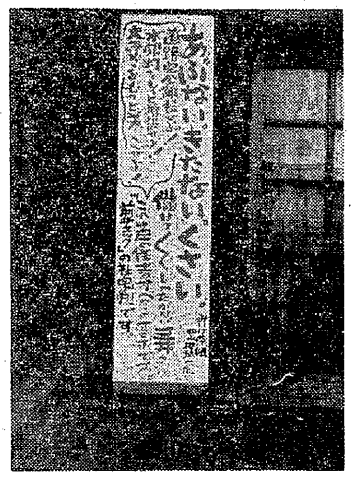
荒れ放題の生活環境



右の写真は、四山社宅百四十三棟横の通り。小雨で路面はぬかるみと化し、田植えでもできそうな思いさえする。

ひどい四山社宅

1月20日の午前1時過ぎのこと、四山社宅で火災発生。場所は同社宅東辺の九棟で、七軒長屋のうち両端の家だけ残しながら焼失した。（上の写真参照のこと）すでに廃屋となっているところだけにさいわいにして、ケガ人もださずにすんだのは助かったが、それでも近くの同型社宅長屋に住む者はびくびく。一老母はほとほと語った。「何しろまわりを無人の社宅に包まれながら暮らしている者は、こわくてこわくて……。この頃子どものシンナー遊びが、流行っているでしょう。中学生が今は高校生より悪く、男と女の生徒が空き屋で遊んどるでしょうが、ハラハラですたい。会社は、こんなこと知っていて手を打たんのでしょうか。何とかしてもらわんなら……」。写真右は、四山指導部の環境改善を呼びかけるアピール。



〝現認証〟の取り扱い

三井東圧化学では――どうなっているか？

三池炭鉱では、たとえ就業中にケガをしてさえ休みも許されない事態が起きている。それどころか〝現認証〟さえ書いてもらえず、ほとんど泣き寝入り。関連企業の三井東圧化学などでは、果たしてどのような取り扱いになっているだろうか？

今三池炭鉱では、〝現認証〟の取り扱いをめぐって問題が起きている。骨折してさえ現認証が書いてもらえず、泣き泣き公傷治療をしている。骨折してさえ現認証が書いてもらえず、泣き泣き公傷治療を断念し、私傷として治療するばかりか、そんな身で出勤しているひどい例さえ伝えられている。

他の産業や企業では、現認証の取り扱いはどうなっているか。

このほど三池炭鉱の関連産業の一つ――三井東圧化学の実際を調べて見た。

資本が経営している以上どこの企業でも、いき過ぎた無災害運動のゆえに、とかく公傷隠しが行なわれるところは一つも変らない。それでも、三井東圧化学に見られる実際上の負傷取り扱いは、三池炭鉱に比べ月とスッポンの違いがある。

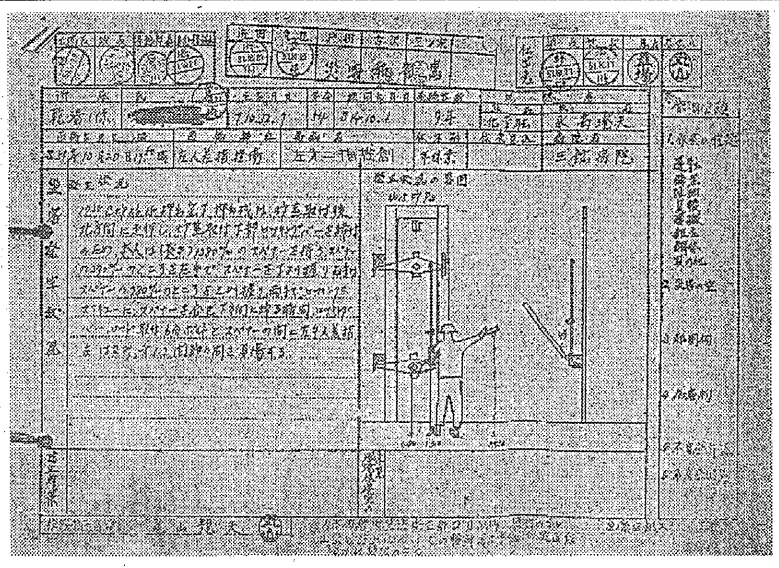
労働者が現場で仕事中、ちょっとでもケガしたとなると、それはすぐ衛生管理者と組合の支部（三池労組の場合分会）に報告され、つづいて両者から組合本部に緊急に連絡される。

そのあと負傷の大小にかかわらず、ケガした本人が治療を受けるにいたるまでのいっさいの手続きは、すべて衛生管理者の手で行なわれ、本人は安心して治療ができる。

「現場でケガした以上、理由が何であれ、現認証を発行するのは当たりまえのこと。まして業務中のケガなら、公傷に間違いなかでしょうから」とは、担当の執行委員の話だった。

体制が大違い

第一、三井東圧化学の場合保安体制から違っている。大牟田工業所の全従業員数は二千人。そこに衛生管理者が十六人配置され、環境保安部があり、それが保安課、環境室、産業衛生室と分かれ業務を分担している。なお衛生管理業務の有資格者はほかにも数多くいて、いざという時に備えている。



三井東圧化学の災害通知書

現認証出している

会社、団交で言明

昨年の十二月九日、三池労組が保安確立に関する七項目の要求（保安問題。号外で既報）をつきつけ、会社と団体交渉をやったときのことである。

その日に先だつ十一月三十日に発生した、柏木俊二さん（二十一歳）の命を奪った四山鉱の災害についての抗議も含む団交で、三池労組はそのなかで次のようなことも追及した。

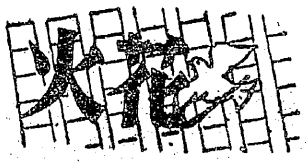
「負傷減運動の名のもとに、現認証さえ発行せず、負傷者が治療のために病院を選ぶのにも干渉している。これは問題だ。それに、鉱長などが下部職制に対して、余りにも災害責任を押しつけ過ぎているのではないか」

これに対して、会社側はハッキリと次のように言明した。

「現認証をださないようなことはやっていない。だしている」「病院を、意図的に強制するようなこともしていない。本人希望を前提にしている」「下部職制に、災害責任を押しつけるようなことはやっていない。災害をなくそうとの意欲の上から、事情を聞いているのに過ぎない」

×

なおこの日の団交に、会社側からは堤鉱務部長、春田人事部長、陣内保安部長らが出席していた。



吹雪で夜が明け、日が暮れた今日でした。三池炭鉱労組の皆々様には、ご壮健にてご活躍のことと拝察します。

さて、CO守る会々費、気がかりながら伸びのびにしてしまいました。半年分ですがお送りいたします。僅少ながら、余分はカンパにお組み入れ下されば幸いです。

〝みいけ便り〟ともいえる新聞が届くたびに、遠く炭鉱の町を偲んでおります。〝姿見〟欄を読むたびに、日和見的な怠惰な日常に押し流される態度を思わず振りかえり、生活の現状を思い合わせ、何とか少しずつ前に進むよう気持をひきしめております。

何しろ富山県は真宗王国、保守王国といわれる程封建性の強い社会地域であります。働いて収入のある婦人でさえ、結婚後も実家からの援助……付け届け、といわれています……節季や行事のたびの贈りもの、他に米や味噌、野菜……子どもの衣類、玩具、入用品等々数えれば枚挙にいとまがありません……が、婚家へ届けられ、嫁というものの身分の保障をなされている特殊な風習を、昔ほどではありませんが、今だに継承している地方性をもっています。

真宗王国の富山でがんばっています

富山　内田　歌代

労組に加入している婦人にも……まして家庭の婦人に対しての意識の開発は、なみなみならぬものが横たわっております。私は家庭にいる女として、少しずつ少しずつ、自分が正しいと思うことを地域の中へ広げたいと働きかけ、共に学ぶ、実践することをつづけたい、と考えております。

それでは時節柄、ご自愛下さいませ。

×

内田歌代さんのお住まいは「富山市水橋花の井町三の一四の五」です。ご支援に、心から感謝申し上げます。ともに手をたずさえあって、歩いていきましょう。